

土砂災害

日本は国土の約7割が山地と丘陵地のため、しばしば土砂災害が発生します。土砂災害は予測が難しく、発生すると一瞬にして多くの人命や財産を奪うとても危険な灾害です。特に雨が1時間に20mm以上、降り始めからの合計雨量が100mm以上になると十分な注意が必要です。

土砂災害の種類とその前兆現象

土砂災害が発生するおそれのある区域として、土砂災害警戒区域・特別警戒区域を県が指定しています。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域。

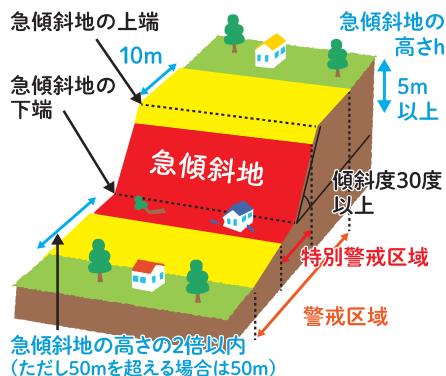
特定の開発行為の許可制、建築物の構造規制等が行われます。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

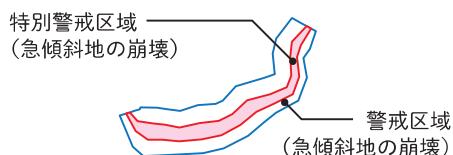
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



前兆現象

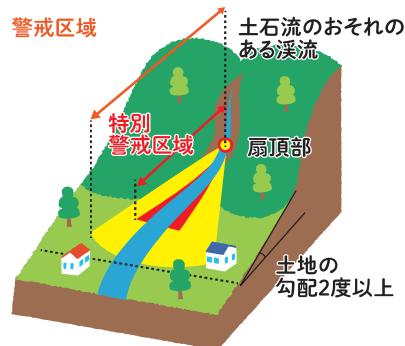
- がけに割れ目が見える。
- がけから水が噴出する。
- がけから小石がバラバラ落ちてくる。

土石流

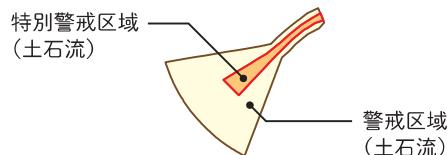
山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流される現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示

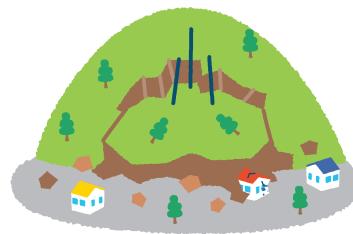


前兆現象

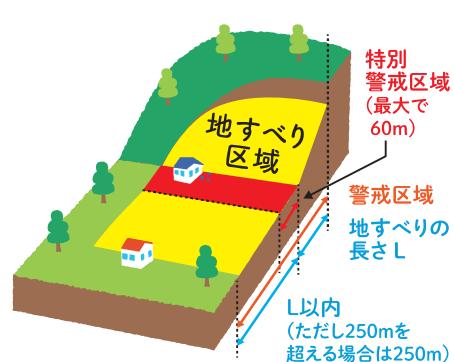
- 山鳴りがする。
- 川の水が濁り流木が混ざりはじめる。
- 雨が降り続いているのに川の水位が下がる。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が地下水などの影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



区域の指定基準



前兆現象

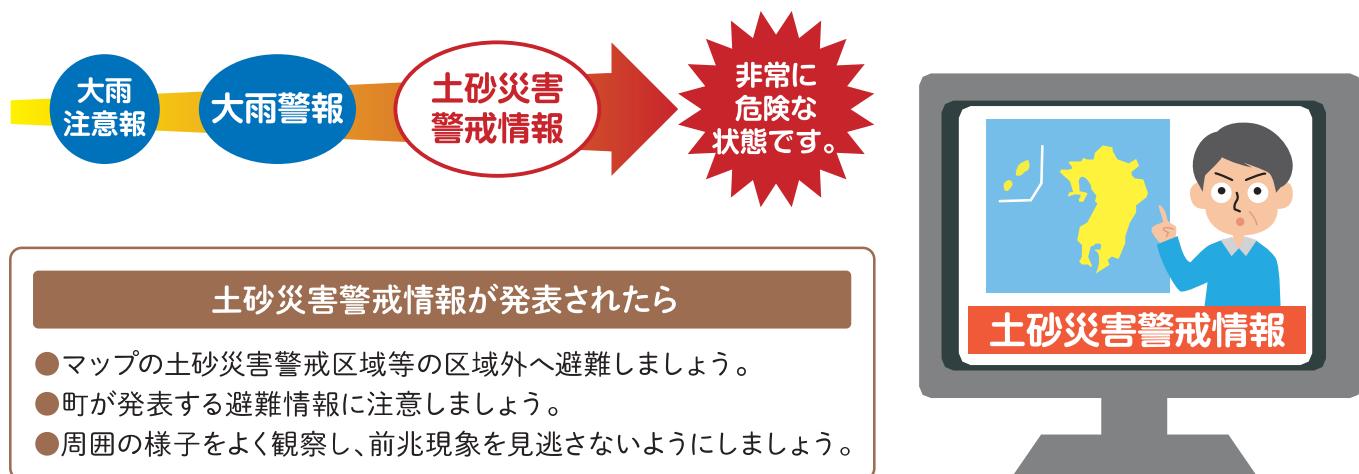
- 地面がひび割れたり、陥没したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- がけや斜面から水が噴き出す。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報とは…

土砂災害警戒情報とは、大雨警報(土砂災害)発表後も雨が降り続き、土砂災害の発生の危険性が高まったときに、福岡県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

土砂災害警戒情報が発表された時は『いつ土砂災害が起きてもおかしくない』という非常に危険な状態です。情報は市町村単位で発表されるので、住民のみなさんの自主避難の判断に活用できます。



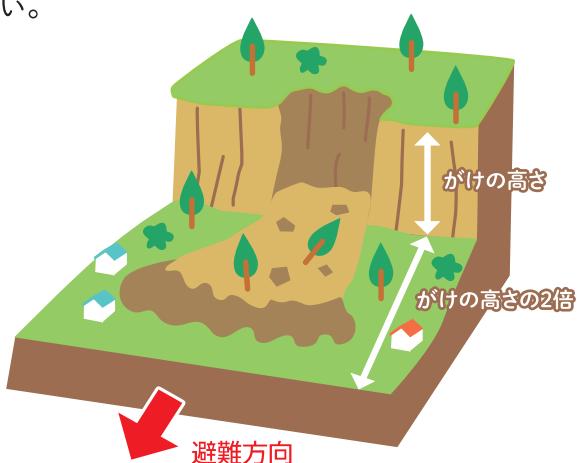
土砂災害警戒情報が発表されたら

- マップの土砂災害警戒区域等の区域外へ避難しましょう。
- 町が発表する避難情報に注意しましょう。
- 周囲の様子をよく観察し、前兆現象を見逃さないようにしましょう。

避難のポイント

がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



他の危険区域を通らない

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)をなるべく通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

土石流のおそれがある場合

渓流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。また土石流が曲がる箇所では、かなり高い位置まで土石流がかけ上がるるので、曲がりの外側のほうが内側より危険性が高くなります。



やむをえず屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。